

2022 Stewardship Report

2022 スチュワードシップ・レポート



目次

1.0 インベスコのステewardship手法 Our Stewardship Approach

顧客中心主義と運用チーム主導

2.0 グローバル・プラットフォーム A Global Platform

インベスコのケイパビリティをサポートしながら拡張

3.0 アクティブ・ステewardship Active Stewardship

資本のステewardとしての自らの権利と責任を行使

4.0 プロダクト・レンジ Our Product Range

顧客が存在する所で

5.0 業界活動 Industry Involvement

対話を推進

1.0

インベスコのステュワードシップ手法

インベスコの掲げる「最も顧客本位の資産運用会社になる」という目標において、ステュワードシップ活動へのコミットメントがその鍵になると考えます



インベスコでは、グローバルなスチュワードシップ活動に揺るぎなくフォーカスしています。インベスコは自らを単なる運用会社とだけ考えておらず、インベスコを信頼する顧客の資産の番人であると考えています。積極的なスチュワードシップ活動を通じ、専門性と献身さによってインベスコに与えられた責任を果たすため、企業と対話し、学び、深化します。

スチュワードシップへのコミットメントを支えるのが、ESG（環境・社会・ガバナンス）投資への強固なアプローチです。インベスコは、適宜、重要で関連性の高いESG要素を活用することで、お客様が望ましい成果を得られるようサポートしています。インベスコの主な使命は明確であり、グローバル市場においてお客様の資産の信頼できるスチュワードとしての役割を果たすことに尽きます。

本スチュワードシップ・レポートでは、2022年のインベスコの成果を概説し、インベスコのグローバルなスチュワードシップへのコミットメントを再確認するとともに、インベスコの取組みがこの中核的使命をどのように強化しているかを詳述しています。インベスコは、受託者としての責任を常に念頭に置きながら、スチュワードシップを最優先するという誓約を堅持し、歩みを続けていきます。



ESGを考慮することは、インベスコのスチュワードシップ・プロセスの重要な要素です



スチュワードシップ&投資

十分な情報に基づく意思決定を通してお客様の投資目的を実現する

インベスコの使命は、最も顧客本位の資産運用会社となることです。私たちは、マテリアリティやモメンタム、エンゲージメントを基盤とする投資哲学に基づき、長期的な価値創造にフォーカスしています。インベスコの投資専門家はESG要素は長期リターンに影響を与えるとリスクと機会をもたらす可能性があることを認識しており、資産クラスや地域、戦略、商品目的に応じて様々な方法で財務的に重要なESG要素を考慮しています。

特定の資産クラスまたは投資スタイルの場合、運用チームは財務的に重要なESG要素を含む項目について厳格な調査と分析を行い、投資パフォーマンスへの影響を評価します。独自のリサーチ・ツールに基づき、運用チームは重要なESG要素について発行体レベルで分析し、必要に応じてグローバルESGチームの知見や専門性を受けることができます。



財務的に重要なESGのインテグレーション

長期的な価値創造と効果的リスク低減にフォーカスする

インベスコでは、商品および/または発行体に関連し、かつ重要な場合、お客様に強力な投資成果をもたらすことにつながる財務的に重要なESG要素を運用プロセスに統合します。

グローバル株式や社債、ソブリン債券、不動産、マルチアセット戦略の投資家として、インベスコはアセットクラスや戦略に応じて様々な方法でESGを統合しています。運用者はポートフォリオにおける意思決定において裁量権を維持しながら、グローバルESGチームからサポートと分析を入手しています。



アクティブ・オーナーシップ

資本のスチュワードとしての私たちの権利と責任を行使する

私たちインベスコは、資本のスチュワードとしての権利と責任を行使します。私たちは、建設的な方法で発行体と対話し、私たちの専門性を発揮して、お客様の最善の利益のために議決権を行使します。



イノベーションとデータ

インベスコのケイパビリティをサポート

インベスコは、ESG要素に関する質の高いデータを持つことが、効果的な投資分析に不可欠であると考えています。ESGintel や PROXYintel、ESGCentralというインベスコ独自のツールを構築・管理することで、ESGデータと分析能力を強化しています。これらのツールは、リサーチやポートフォリオ・レビュー、ポートフォリオ最適化、エンゲージメント、議決権行使で利用されています。



顧客とのパートナーシップ

お客様に応える

インベスコは、お客様のニーズや目的に合わせてソリューションをカスタマイズすることに重点を置いた、お客様中心のESGアプローチを採用しています。ESGにフォーカスした様々な商品を提供することで、お客様が自らの価値観を投資を通じて表現できるようにしています。お客様の中には、ポートフォリオにESG投資のガイドラインや制限を課すよう求めてくる方もいます。そのため、ESGについての目標を追求しようとするESG志向のお客様向けに一連のポートフォリオ・ソリューションを提供しています。



業界活動

ESGに関する対話の促進

インベスコは、金融市場の継続的な機能向上を促進するため、様々な業界イニシアチブに参加しています。参加している団体には、例えば以下の団体が含まれます。

- 責任投資原則 (PRI)
- ネットゼロ・アセット・マネジャー・イニシアチブ (NZAM)
- グローバル不動産サステナビリティ・ベンチマーク (GRESB)
- 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)

最新のESG規制について政策立案者とも対話をしており、またケンブリッジ大学や清華大学と学術提携を結んでいます。

2.0

グローバル・プラットフォーム

インベスコは、効果的なスチュワードシップ活動のための監督機能と説明責任を果たすためのガバナンス体制を有しています



[2022
Stewardship
Report](#)

[1.0
Our
Stewardship
Approach](#)

[2.0
A Global
Platform](#)

[3.0
Active
Stewardship](#)

[4.0
Our Product
Range](#)

[5.0
Industry
Involvement](#)





出所：Invesco。2023年6月末時点。データは通知なく変更される可能性がある

¹ マルチアセット戦略の数字にはファンド・オブ・ファンズ形態で投資されるインベスコ商品に直接投資される資産額は含まれない。

² IVZ 全体の運用資産額は1.54兆ドル。債券の共同管理される109億ドルは含まれない。

英国におけるチーフ・インベストメント・オフィサー（CIO）への チャレンジ・プロセス

運用チームとのダイナミックで建設的な対話を促進することによりインベスコのステュワードシップへのコミットメントをサポートするため、インベスコはヘンリーに拠点を置くポートフォリオ・マネジャーを対象に、年1回の社内CIOチャレンジ・プロセスを設けています。

その目的は、ポートフォリオ・マネジャーが運用において期待されるレベルのデュー・デリジェンスを実施していることを確認することです。投資監督チームやピア・インベストメント・チーム、ディストリビューション、EMEAリスク・マネジメント・チーム、グローバルESGチームなどのステークホルダーが協力して、定量的・定性的データとディスカッション・ポイントを用意します。

CIOチャレンジ・プロセスの目標とする成果:



ポートフォリオ・マネジメント・スキルの評価に関する網羅的で強固なレビュー・プロセスを用意する



ポートフォリオ・マネジャーの運用パフォーマンスや質、プロセスの再現性、投資戦略、リスク管理、対外プロモーションメッセージ等に関する深い洞察



ポートフォリオ・マネジメント・チーム全体に対してグッドプラクティスを共有する

プロセスにおける一つの要素として、ESGチームは企業データを調査し、特定された企業とポートフォリオ・マネジャーが過去12ヶ月間にどのようなやり取りをしてきたかを検証します。これは、十分な情報に基づいた投資判断を下すために、特定された論点（不祥事など）について議論し、どう意見が形成されたかどうかを確認するためです。また、ESGチームはファンドマネージャの過去12ヶ月間のエンゲージメント活動に関する統計データも提供します。



インベスコは、効果的なステewardシップのための監督と説明責任を果たすためのガバナンス体制を有しています。グローバルESGチームは、センター・オブ・エクセレンスとして機能し、グローバル運用チームと協働しています。

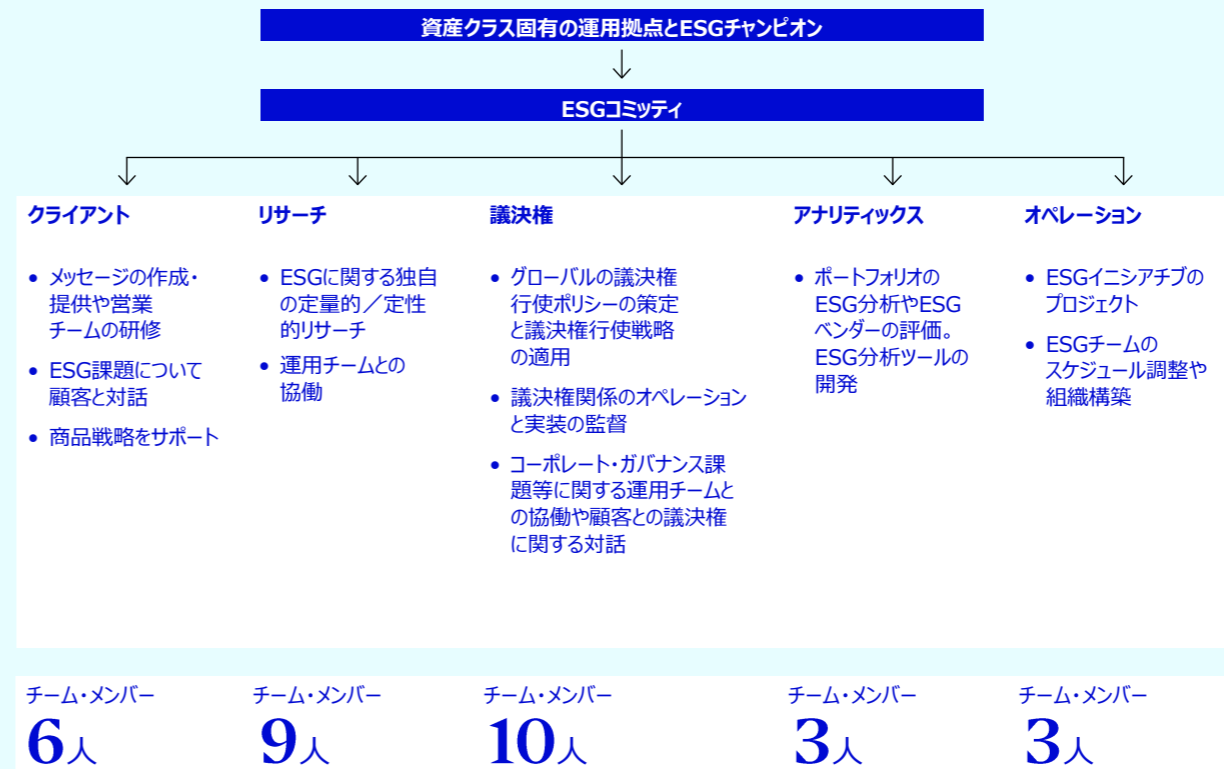
1. インベスコの運用拠点における各リーダーは、社内プログラムにおける戦略とガバナンスを推進しています。彼らは、インベスコの専門的な運用チームを監督すると共に、グローバルな専門知識やサポート、他チームとの連携についてもバランスをもたらします。このようにして、運用拠点のリーダーは、長期的に一貫性を保ちつつ、お客様により良い結果を提供するようサポートを提供しています。
2. インベスコのグローバルESGチームは31名のプロフェッショナルで構成され、インベスコ全体のESGケイパビリティのベストプラクティスを活用するためのセンター・オブ・エクセレンスとして機能しています。ESGチームは、クライアント、リサーチ、議決権、アナリティクス、オペレーションズという5つの柱で構成されます。北米、アジア太平洋、EMEAの3つの地域に人員が配置され、ESGチームが様々なサポートと分析を提供する一方、運用チームはポートフォリオに関する裁量権を維持しています。
3. ESGコミティは、運用拠点のリーダーが指名した代表者その他のグループの代表者で構成され、特にESG投資にフォーカスしています。ESGの考慮は、運用チームがそれぞれ実施しています。ESGコミティは、グローバルの各運用チーム間のESGに関する協働を可能にしています。
4. インベスコのESG統合アプローチが目的を持ち、統一され、インパクトを持つことを確実にするため、インベスコ内にいくつかのワーキング・グループが設置されています。ワーキング・グループは、特定のイニシアチブを推進するため、また、新たな規制に対応するために設置されます。例えば、2022年に、EUの持続可能な金融情報開示規制（SFDR）に対応するため、ESGリサーチ・データ・コミティは「主要な悪影響（PAI）」を考慮するための手法構築にフォーカスしました。また、商品、マーケティングや規制、テクノロジー、営業などのファンクションをまたいだ取り組みも行われています。

大規模でグローバルな資産運用会社として、インベスコはこのようなガバナンス体制により、グローバルで一貫したステewardシップの基準を維持しつつ、思考の多様性のメリットを発揮できると考えています。インベスコの運用チームは、グローバルESGチームのリソースを活用しながら、各ESGコミティやワーキング・グループへの参画を通して、適切な監督と説明責任を果たすことができます。こうした体制のもと、インベスコの専門的な運用チームは、ESG戦略を求める顧客のために、それぞれの資産クラスや投資スタイルに合ったESG手法を実践することができます。

インベスコの目標を達成するためのケイパビリティの提供

ESGグローバルヘッドが率いるグローバルESGチームは、会社全体のESGへの取組みをサポートできるよう5つの柱で構成されています。また、グローバルESGチームは3つの地域に設置されているため、インベスコのほとんどのチームが同じ地域に適切な窓口を持つようになっています。ESGコミティや資産クラスごとの運用チーム、会社の各ファンクションは、5つの柱から選出されたグローバルESGチームのメンバーと協働します。

グローバルESGチーム



インベスコの独自ツール

ツール & イノベーション

ESGデータは急速なペースで進化し続けていますが、一方でデータの比較可能性やカバレッジという課題もあります。インベスコでは ESG要素に関する質の高いデータを持つことは、効果的な投資分析に不可欠であり、ESG分野におけるインベスコのステューワードシップの取組みをサポートするものであると考えています。2022年、インベスコは、ESGintel、PROXYintel、ESGCentralといった独自のツールを構築・更新することで、ESGデータと分析能力を強化しました。

ESGintel

2020年に開発したESGintelは、インベスコ独自のESGリサーチと格付けのプラットフォームであり、企業やソブリン発行体の主要なESG課題に関する洞察を、さまざまな指標やデータポイントを通じて提供しています。

ESGintel 発行体格付け

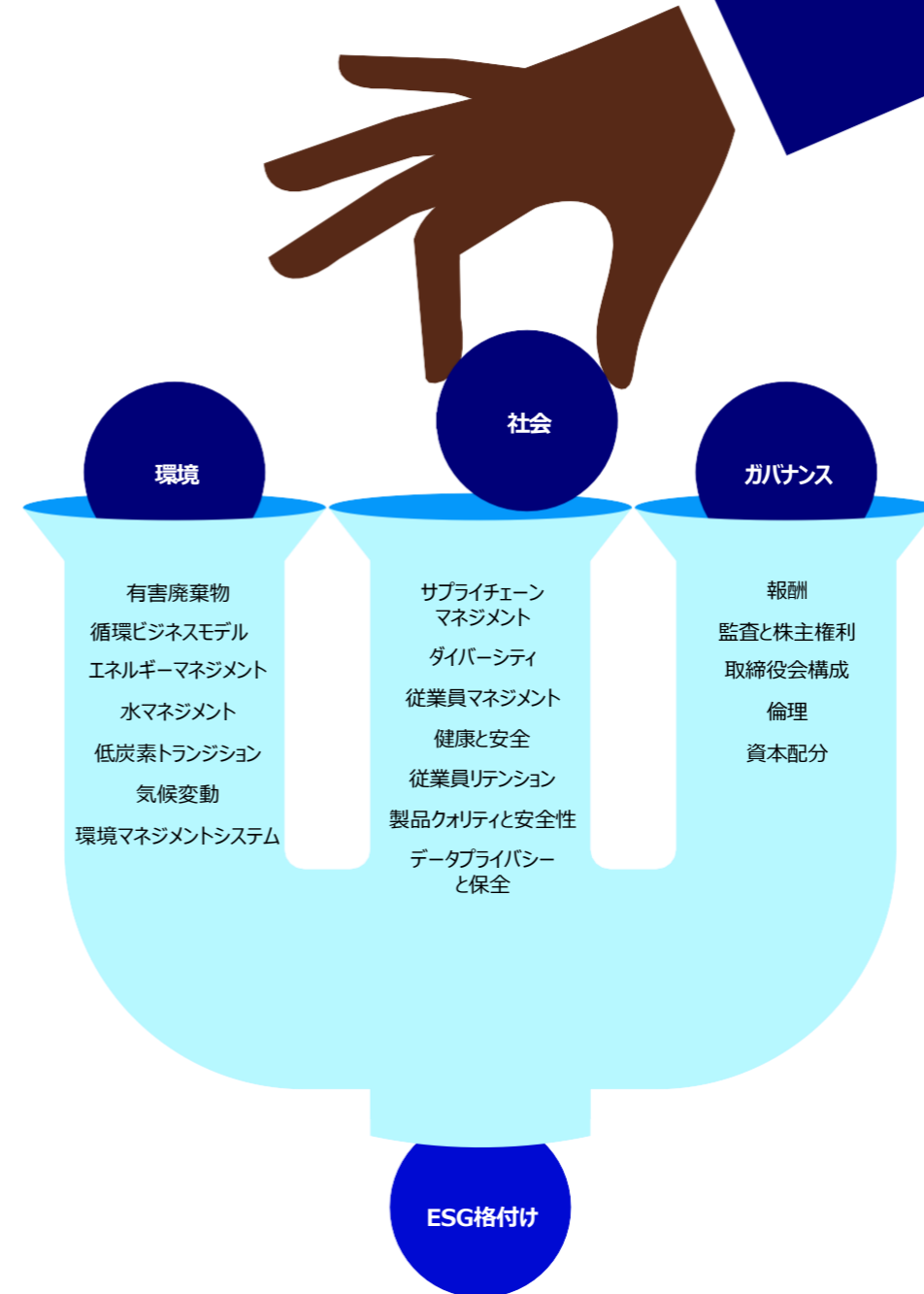
ESGファンドやESG戦略を評価する際、ESGintel発行体格付けは、インベスコが社内で開発した手法に基づくESGレーティングやそのトレンドやモメンタム情報、基礎となる企業レベルのデータへのアクセスをユーザーに提供します。セクターやサブセクターのマテリアリティがこの枠組み内で適用されており、事業活動に最も関連性の高いESG課題について企業が評価されるようになっています。様々な基礎指標が課題レベルの評価に反映されており、それがおける総合的な評価につながります。課題レベルの評価は、環境、社会、ガバナンスのテーマ別評価と、インプット、オペレーション、アウトプットのバリューチェーン評価に集約されています。

ESGintelの格付けは、全体、テーマ、バリューチェーン、課題、指標という各レベルで1～5段階評価となっており、絶対評価やサブセクター内相対評価、地域内相対評価で提供されます。

ESG格付けは、入手可能な最新情報を反映し、毎週更新されます。格付けに加え、サブセクターや国レベルでの企業ランキングも提供しています。また、ESGintelプラットフォームには分析機能が組み込まれており、企業とユーザーが選択した同業他社との時点比較や過去との比較が可能です。現在、約15,000社がESGintelの総合的なESG評価を作成するための最低カバレッジ基準を満たしています。さらに、このツールは機械学習アルゴリズムを活用しており、類似した特性を持つ企業のデータに基づき、データポイントの欠落を埋め合わせます。ESGintelの透明なインターフェースは、そのような近似値が使用されている箇所を強調することで、アナリストが基礎となるインプットを精査できるようにしています。

ESGintel ソブリン格付け

運用チームからのフィードバックに応え、インベスコはESGintelを企業格付けだけでなく、ソブリン債を含む他の資産クラスにも拡大しました。20以上のインプットにより、ESGintelソブリン格付けはE/S/Gの各カテゴリー毎のスコアを作成しており、総合的なESGスコアに集約することができます。ESGintelソブリン格付けは、内部格付け、格付けトレンド、160か国中のグローバルランキングも提供します。ESGintel のソブリン格付けは毎月更新されます。



1 ESGintel ソブリン格付けは、2021年のステューワードシップ・レポートではソブリンIntelという名称だった。

ESGCentral

ESGintelは主に発行体レベルのリサーチツールですが、ESGCentralはポートフォリオ分析とスクリーニングも含むプラットフォームです。

ESGCentralは、40以上のESGデータ・ソース（のべ52,000社以上の企業とESGデータ指標をカバー）を取り込み、インベスコのESGポートフォリオとベンチマークに統合され、ポートフォリオレベルのESG分析能力を提供します。このプラットフォームのデータを活用した洞察はポートフォリオにおけるESGの機会とリスクを浮き彫りにします。このツールは、ポジティブESG、ネガティブESG、ネットゼロ、アーティクル8、サステナブル/責任投資、その他のESGフレームワークでポートフォリオをスクリーニングすることができます。これらの機能を通じて、このプラットフォームはESGコンプライアンスやリスク管理、ESGレポーティング、SFDRやTCFDなどの規制対応をサポートします。ESGCentralにより、インベスコのESGアプローチは明確に差別化されたものとなります。

FocusIntel

エンゲージメント対象企業の優先順位を付けるため、ESGリサーチチームは、インベスコの全保有銘柄の中でESGリスクが最も高い発行体のリストであるFocusIntelを管理しています。特定のESGファンドや戦略を評価するため、発行体のESGリスクを高/中/低のカテゴリーとコンプライアンス状況に分類しています。

このインベスコ独自のツールには、継続的な改善を促すためのフィードバック・プロセスが組み込まれており、情報源やデータ、方法論に関する問題や見解、要望に関するユーザーのフィードバックが収集されます。



	ESGintel	ESGCentral	FocusIntel	PROXYintel
ツールの説明	第三者のESGデータとマテリアリティに関するインベスコの見解を統合するリサーチ・ツール	運用チームがポートフォリオレベルで網羅的/カスタム化されたESG分析を行うためのクラウド・ベースのESGプラットフォーム	インベスコが保有する全銘柄のうちESGリスクが最も高い発行体のリスト	個別企業と議案に関する議決権行使とその理由をトラックし、インベスコ全体で共有するためのプラットフォーム
分析の範囲	発行体レベル	ポートフォリオレベル/発行体レベル	発行体レベル	発行体レベル
アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> 5段階スコア E/S/Gスコア ピア比較と過去比較 エンゲージメントメモ 	<ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオレベルの分析と管理、スクリーニング リスク管理と規制対応をサポート（例：SFDR） ESGレポーティング 	<ul style="list-style-type: none"> 特定のESGファンドや戦略に関する高リスク銘柄リスト 発行体が高リスクと見なされる明確な指標 	<ul style="list-style-type: none"> 行使結果 行使理由
運用チームによる主な利用方法	特定のESGファンドや戦略について、投資決定にESGリスクを統合する際に必要となる企業のESG特性の調査	ESGに特化したポートフォリオを分析し、40以上のESGデータ・ソースを使用してベンチマークと比較したESGの機会とリスクを分析する。ネット・ゼロやアーティクル8、サステナブル/責任投資等、様々なESGスクリーニングも可能とする。	ESGファンドや戦略に照らして高リスクかどうかを特定し、グローバルESGチームと連携してエンゲージメント活動を行う。	議決権行使意思決定をサポートし、他のインベスコ運用チームがどのように行使したか、またその理由等を共有する。

サービス・プロバイダーの利用

インベスコは、ESG格付けプロバイダー、議決権調査、事業関与スクリーニング、カーボン・データなど、インベスコのステewardship活動をサポートするために外部のサービス・プロバイダーを利用しています。これらのサービス・プロバイダーからのデータは、インベスコ独自のツールに供給され、社内のESGリサーチと分析をサポートし、運用チームが十分な情報に基づいた意思決定を行えるようにしています。



インベスコが利用するESGリサーチ・プロバイダー、ツール、テクノロジー

ESGリサーチ・プロバイダー			
Sustainalytics	MSCI	Bloomberg	ISS
Sell-side Research	SG Analytics	Clarity AI	Vigeo Eiris
Equileap	Just Capital	Morningstar	Nikko Research Center
FAIRR	Net Zero Tracker	CA100+	Proxy Insight
Carbon Disclosure Project	Carbon Underground 200	Transparency International	Transition Pathway Initiative (TPI)
Science Based Targets Initiative	Climate Bonds Initiative	International Energy Agency	UN Human Development Index
Worldwide Governance Indicators (WGI)	Sustainable Development Goals (SDG) Index	Environment Performance Index	Child Rights Benchmark

議決権行使リサーチとアドバイザー		
Glass Lewis	ISS	IVIS (英国株式)

インベスコ独自ツール			
ESGintel	FocusIntel	ESGCentral	PROXYintel

出所：Invesco。2023年2月時点。参考までの表示。ISS: Institutional Shareholder Services。FAIRR: Farm Animal Investment Risk & Return。IVIS: Institutional Voting Information Service。MSCI: Morgan Stanley Capital International。

英国ヘンリー拠点のアジア・エマージング株式チームのESGフレームワークと、インベスコの独自ESGツールの利用

英国ヘンリーに拠点を置くインベスコのアジア・エマージング株式チームは、数十年にわたり、企業価値を大幅に下回る価格で株式を購入するという投資アプローチを採用してきました。従って、企業のフェアバリューに関する見解を確立することは、適切な投資判断を行う上で不可欠であり、そのため重要なESGの考慮事項を企業のファンダメンタル分析に取り入れることがますます重要になっています。

当チームは、ESG要素を従来の財務・定性面とともに精査し、投資ケースを形成する総合的なアプローチを採用しています。投資プロセスにおいて、運用チームはグローバルESGチームのツールや洞察力を活用しています。

アジア・エマージング株式チームによるESGインテグレーション

ESGは、グローバルESGチームのインサイトやツールを利用して、投資プロセスの様々な段階で統合されています。



こうした活動により十分な情報に基づく意思決定とポートフォリオ・エクスポージャーの理解が得られます。

出所：ヘンリーを拠点とするインベスコのアジア・エマージング株式チームは、顧客のESG選好に合わせたセパレート・アカウントを運用しており、また一定のスクリーニングを使った欧州SFDRのアーティクル8に適合するルクセンブルグ籍ファンドも提供しています。言及された結果が実現される保証はありません。

リスクと機会の特定

逆張り投資家であるインベスコのアジア・エマージング株式チームは、ESG課題に対する市場の過剰反応は運用チームにとってチャンスとなり得ると考えています。しかし、重要なESGリスクを過小評価することの危険性も認識しています。生じる疑問としては、株式は本当に割安なのか？エンゲージメントを通じて企業の遅れを改善する余地はあるのか？というものがあります。インベスコ独自のESGintelが、様々な外部ESGレーティングや不祥事データ、潜在的な価値のあるリスク源など、貴重な非財務情報の照合に利用されています。ESG関連情報は分析評価され、各チームのリサーチノートに記載され、将来の企業エンゲージメントにおける道しるべとなります。

トータル・リターンを3要素の定量化

アジア・エマージング株式チームは、3年から5年の投資期間中にその企業が生み出すことのできるトータル・リターンという観点で企業を評価します。これは潜在的にESGの影響を受ける可能性のある3つのリターン要素、すなわち、期待される事業成長、フェアバリュー倍率の期待変化、利回り、によって決定されます。ESGに優れた企業や過小評価されている改善企業は、より良い事業成長を実現し、市場価格よりも高い評価を集める可能性があります。アジア・エマージング株式チームは、ESGに基づく考察をファンダメンタルズ分析と統合することで、投資判断を改善できる可能性があると考えています。

企業とのエンゲージメント

アジア・エマージング株式チームは、「完璧」ではなく「改善する可能性」を買うことがESGの好結果と堅実な投資リターンの両立につながると考えています。そのため、当チームはESG課題に関して企業経営陣と積極的に対話し、投資価値の向上に努めています。有益な場合にはグローバルESGチームも関与し、ベストプラクティスと洞察を共有します。そのような時に、議決権行使プラットフォームであるPROXYintelが、チームが議決権を効果的に行使できるようサポートします。

ポートフォリオのモニタリングとレビュー

チャレンジ・カルチャーは、チームによる全ての投資決定（ピアチャレンジ、CIOチャレンジ、リスクチームによる監督）に浸透しており、ESGも例外ではありません。ESG情報は、アジア・エマージング株式チームがグローバルESGチームと半年に一度行うレビューで正式に提起されます。チームは総合評価が低い銘柄を取り上げ、根本的な問題について議論します。ポートフォリオ全体のESG評価にマイナスの影響を与えるような銘柄はより詳細な精査が必要であり、これらの企業は更なるエンゲージメントのためにチームの「ESGフォーカスリスト」の一部となります。

3.0

アクティブ・ スチュワードシップ



対話は、投資プロセスの中核です。

アクティブ・オーナーとして、また良きスチュワードとして、インベスコは、発行体との対話をお客様の利益のために長期的な価値創造を促進する強力かつ効果的な手段と考えています。

財務上、重要なESGリスクを有する発行体については、エンゲージメントに際してESG事項に関する対話が含まれる場合があります。ESGエンゲージメントとは、ESGに関する事項について、発行体と直接対話または情報提供の要請を行うことです。

成功するエンゲージメントとは以下であると考えています。

Targeted

私たちは、ボトムアップでエンゲージメントのための重要な課題に優先順位をつけます。エンゲージメントの目的と対象となるトピックは発行体固有のものになります。

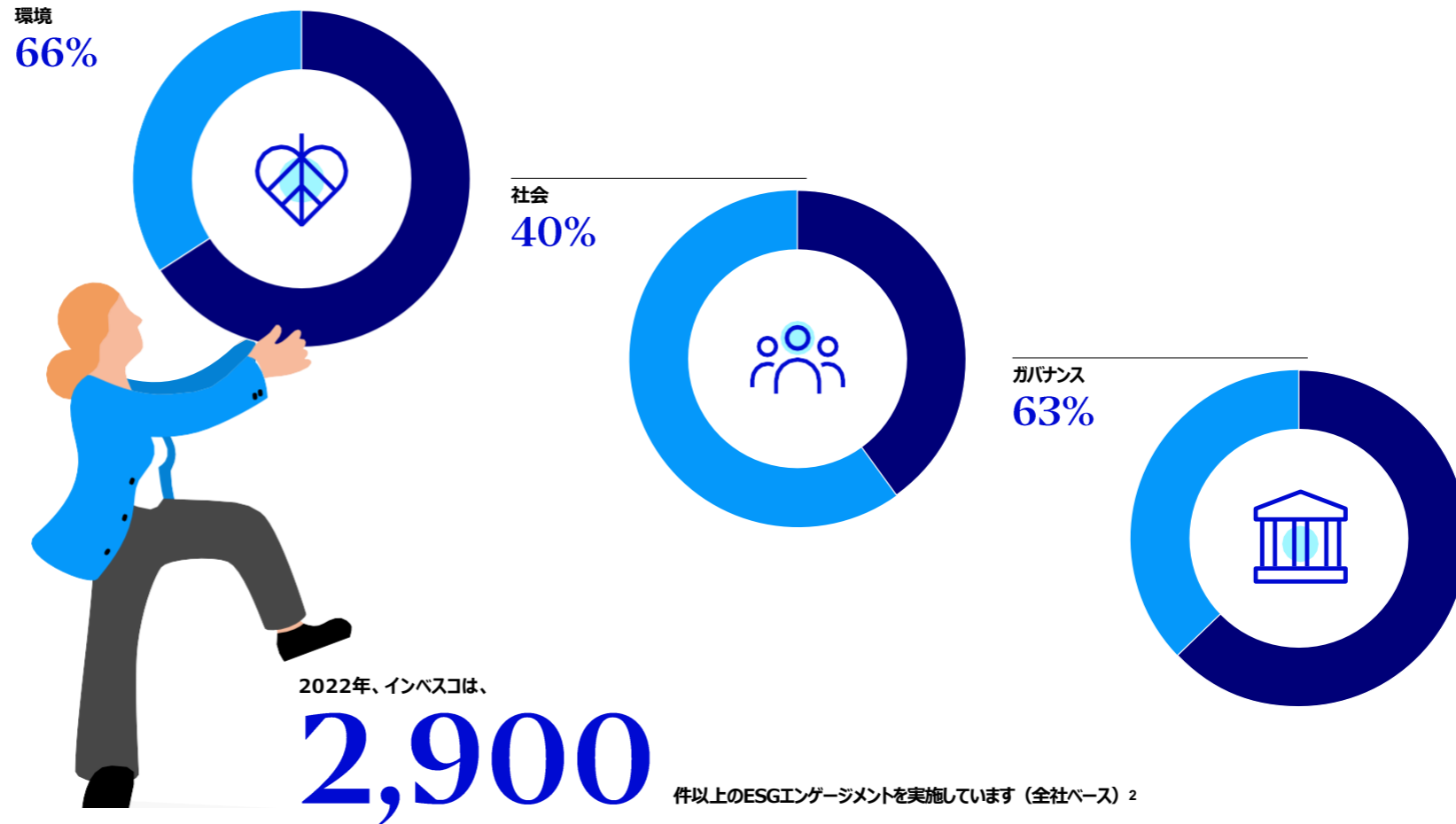
Outcome-based

私たちは、エンゲージメントには明確で一貫した目的があるべきだと考えています。これにより、ポートフォリオ全体のリスク軽減と長期的な価値創造が促進されます。

Monitored

エンゲージメントは、一度だけの対話でない時に最も効果的になります。私たちは、エンゲージメント・レポートやケース・スタディを通じて、長期的な価値創造に向けた発行体の進捗状況を文書化しています。これにより、これまでのエンゲージメントの流れと勢いをさらに高めることができます。

ESGテーマをカバーするエンゲージメントの比率（%）¹



¹ インベスコはESG関連のトピックで発行体と複数回関わることもあり、また会話は複数のテーマに及ぶことが多いため、パーセンテージの合計は100%にはなりません。これらのパーセンテージは、運用チームやグローバルESGチームが記録したものにに基づきます。パーセンテージは、2022年のインベスコ全体のエンゲージメント総数2,900件以上から38%（1,000件以上）のエンゲージメント（E、S、Gのカテゴリが開示されているか、文書から導き出せるもの）をサンプルとして必要に応じて概算したものです。

² グローバルESGチームは、自らのまたは運用チームの文書を使い、年間ベースで上記の数字を算出しています。

インベスコでは、投資先企業の長期的な価値創造を推進するグッド・ガバナンスをサポートできるため、議決権行使はお客様の最善の利益のための意思決定を追求する受託者責任に根差していると考えます。

議決権行使を通じてお客様の株主権利を行使することは、インベスコの投資運用責任において不可欠な要素です。議決権行使はエンゲージメント活動に基づき、経営陣の説明責任を果たすためのものです。また、投資家にとっては、自らの意見を企業に伝える機会になります。

インベスコの投資リーダーによって策定され、レビューされている、インベスコのグローバル・コーポレート・ガバナンスと議決権行使に関するポリシー・ステートメント（グローバル議決権行使ポリシー）は、インベスコの責任投資へのコミットメントと議決権行使に関する注意義務、またエンゲージメントと株主総会において十分な情報に基づく意思決定を確保するためのグッド・ガバナンスをお客様にご理解いただくための方針と手続きを記載しています。インベスコのグローバル議決権行使ポリシーは、顧客の権利を守り、株主に対する経営陣と取締役会の説明責任を強化するグッドガバナンスを促進し、十分な情報に基づく議決権行使の基盤となります。議決権行使に関する決定は、インベスコのグローバルESGチームからのインプットとサポートを受けながら、インベスコのポートフォリオ・マネジャーとアナリストが行います。

議決権行使については、インベスコ・グローバル議決権諮問委員会（グローバルIPAC）が監督しています。グローバルIPACは、運用チームが議決権行使を管理すべきというインベスコの哲学に基づき、運用チーム主導型の委員会です。この委員会は、世界中の様々な投資運用チームの代表者とインベスコのESGグローバル・ヘッドで構成され、インベスコのGlobal Proxy Governance and Voting Managerが委員長を務めています。

インベスコは、ポートフォリオ企業のリスクと機会を管理することは「一律」ではなく、また、すべての問題がすべての企業にとって重要であるとは限らないことを理解しています。インベスコの運用チームは議決権行使の決定を行うにあたり、個別企業の業績や経営陣とのこれまでのエンゲージメント内容、独自調査や第三者調査、各市場におけるユアンスや基準、潜在的な懸念事項として特定された議決権行使項目など、多くの要素が考慮されます。

インベスコは、コーポレート・ガバナンスに加え、財務的重要性の観点から、リスクや機会を表すと考えられるEやSの課題を検討することがあります。個々のポートフォリオ・マネジャーが、インベスコのグッド・ガバナンス原則や議決権行使ガイドラインに沿わない方法で特定の議決権行使を選択した場合は、インベスコの方針に基づき、その根拠が完全に文書化されるように努めます。その結果、個々のファンドの投資目的や利害によって特定の議案に対する見解がポートフォリオ・マネジメント・チーム間で異なる場合があります。

インベスコ独自の議決権行使プラットフォームにより、グローバルな運用チーム全体での意思決定とその根拠の理解が容易になります。インベスコは、グローバル議決権行使ポリシーに基づき、全ての議決権を行使することを目指します。インベスコは、議決権行使の経済的またはその他の機会コストが顧客にとっての便益を上回る場合（例えば、議決権行使の指示を送った後にインベスコ株式の取引が制限される場合。別称「株式ブロック」）や、インベスコのグローバル議決権行使ポリシーに概説されている特定の種類の利益相反がない場合には、議決権行使を控えることがあります。これらの事項は、関連するポートフォリオ・マネジャーの裁量に委ねられます。地域またはアセットクラス特有の考慮事項により、インベスコのグローバル議決権行使ポリシーとは異なるローカルガイドラインまたはポリシーや手続きが必要になる場合があります。

インベスコのグローバル議決権行使ポリシーは、顧客の最善の利益との一貫性を維持し、進化するガバナンス・プラクティスおよび運用チームの考慮事項を反映するために、少なくとも年に1回は正式に見直されます。

取締役の選任に反対した主な理由¹

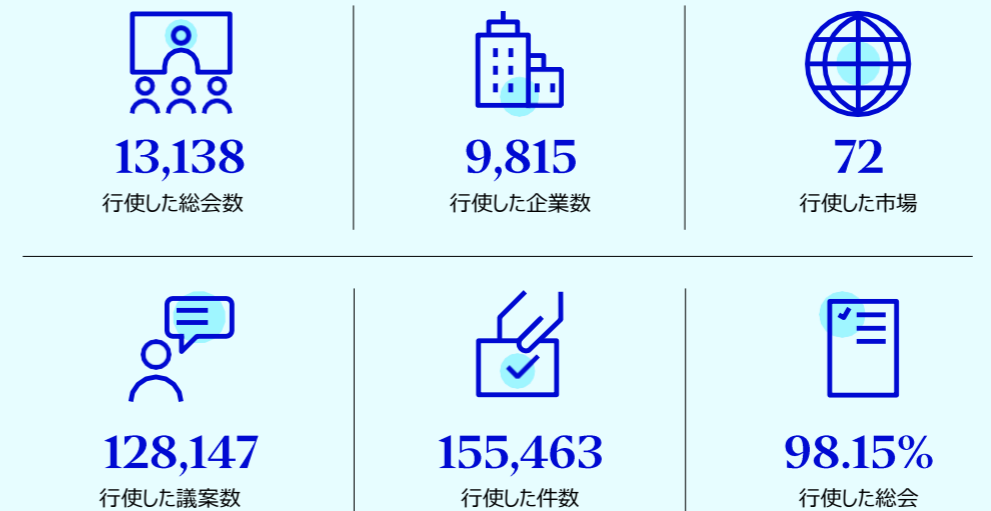
(会社数)

	アメリカ大陸	アジア太平洋	EMEA
独立性の欠如	664	755	482
取締役の任期	1,270	16	19
取締役会の多様性の欠如	612	310	84
取締役の過多	483	249	220
報酬	288	214	126

出所：Invesco, Institutional Shareholder Services (ISS)。2022年1月から12月までのデータを2023年1月27日に取得。

¹ 取締役の選任議案に反対や棄権

2022 概要



出所：Invesco, Institutional Shareholder Services (ISS)。2022年1月から12月までのデータを2023年1月27日に取得。

2022年のグローバル議決権統計

最低1つの会社提案に反対した総会数 (%)



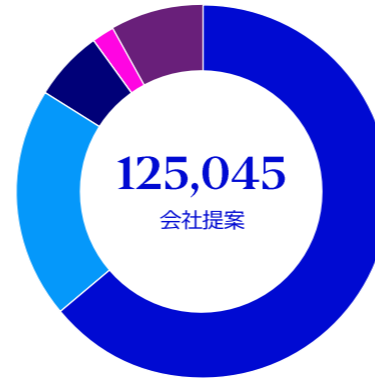
■ 最低 1 つは反対	57
■ 会社提案に賛成	43

2022年中の行使内容 (%)



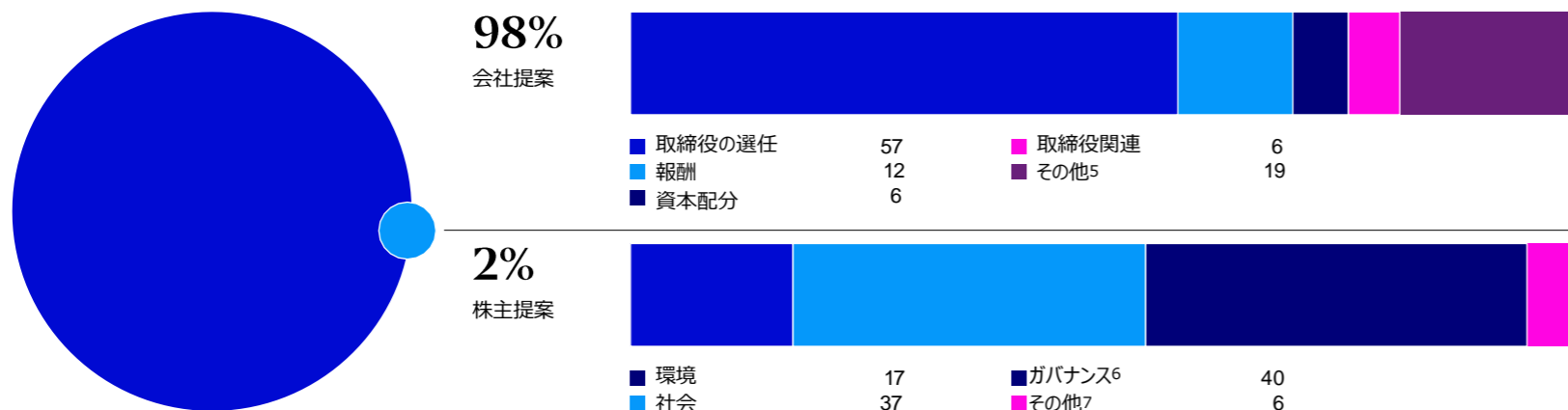
■ 会社提案に同意 ¹	91.17
■ 会社提案に反対 ²	8.83

会社提案に反対した議案³ (%)



■ 取締役選任	64
■ 報酬	20
■ 資本配分	6
■ 戦略的取引	2
■ その他 ⁴	8

行使した提案 (%)



出所：Invesco、Institutional Shareholder Services (ISS)
2022年1月から12月までのデータを2023年1月27日に抽出

- 1 会社提案に賛成した比率
- 2 会社提案に反対した比率
- 3 議案内容ごとの、会社提案を支持しなかった行使比率
- 4 その他の会社提案には次が含まれる：定款、監査関連、買収関連、ESGファンド、恒常的／非恒常的事業、その他
- 5 その他の会社提案には次が含まれる：監査関連、戦略的取引、定款、投資信託、買収関連、環境や社会、環境と社会の融合、恒常的／非恒常的事象
- 6 ガバナンス関連の株主提案には次が含まれる：取締役の選任や取締役関連事項
- 7 その他の株主提案

ケース・スタディー：人的資本



日本のIT企業



取り上げられた課題
人的資本管理



エンゲージメント手法
オンライン会議

課題

ITシステム会社が抜本的な事業改革を目指した結果、フリーキャッシュフローの創出や資本政策が改善した。しかし、その一方で、顧客企業のITシステムのトラブルやサプライチェーンの混乱が相次ぎ、四半期業績への懸念が高まった。

行動

インベスコの日本法人は、発行会社と対話し、発行会社が改革に取り組む方向性を強く支持するもの、このような劇的な労働環境の変化は混乱や歪みを引き起こす可能性があることを伝えた。経営トップは、事業再構築の前提として人的資本管理改革が重要であることを改めて強調した。また、経営陣は改革の目的についても説明した。

成果

この発行体は、採用慣行の変革や再教育、早期退職プログラムによって人的資本を活性化させる意欲的な計画を示した。一連の挑戦を通じて、発行体はトップラインの成長に加えて収益性の改善も実現した。

次のステップ

インベスコは、いくつかの課題や混乱があったものの、経営トップのコミットメントの下での事業再構築の進展を高く評価した。発行体の収益トレンドはプラスに転じたが、インベスコは引き続き長期的な収益成長を確認する。

出所：Invesco。参考までの表示

ケース・スタディー：資本配分に関する複数年にわたる対話



インドの自動車製造業



取り上げられた課題
資本配分と取締役会の構造と
独立性



エンゲージメント手法
オンライン会議

課題

ヘンリー拠点のアジア・エマージング株式チームは、収益性の低い海外投資と非中核事業が同チームの初期分析で指摘されて以来、複数年にわたり同発行会社に関与してきた。チームは一貫して取締役会に懸念を伝えてきた。

行動

2020年、株主として、ヘンリー拠点のアジア・エマージング株式チームは、これらの問題について経営陣と積極的に対話し、経営陣のその後の方針転換の決定を前向きな展開と解釈した。それ以来、運用チームは発行体との対話を継続し、行動のタイムラインを再確認し、最近では2022年に、防衛関連製品のエクスポージャーとEV製品計画について発行体と対話した。

成果

同社は（取締役会を含む）上級経営陣の入れ替えを行い、長期的な配分の効率化を達成するための一連の戦略を策定した。運用チームの見解では、同社がコーポレート・ガバナンス慣行の改善と株主還元向上に改めて注力したことは、同社の成長見通しと市場での認知度を向上させる余地がある前向きな展開であった。

出所：Invesco。参考までの表示

ケース・スタディー：脱炭素とサプライチェーン・リスク



欧州の自動車製造業



取り上げられた課題
電化、脱炭素、人権



エンゲージメント手法
オンライン会議

課題

ヘンリー拠点の債券チーム（HFI）は、発行体のIR担当者と面会し、同社の企業戦略や電気自動車（EV）移行、サプライチェーン・リスク、脱炭素戦略について話し合った。

行動

この発行体は、市場環境が許す限り、2030年以降はEVのみを販売するという欧州戦略をとっている。チームは、この目標を達成するためにはどのような市場環境が必要なのか、理解を深めたいと考えた。この発行体は、業界が直面する最大の課題のひとつが充電インフラの整備であることを強調した。その進展を促進するために、2つの充電ポイント・パートナーと提携し、自社の車両をサポートする充電ネットワークを構築した。この会社のEV目標は野心的だが、特にバッテリー製造の主要部品であるコバルトの調達に関して、サプライチェーン・リスクを管理するための適切な措置が取られていないことが懸念された。発行体は、すべてのコバルトをIRMA（責任ある採掘保証のためのイニシアティブ）の認証を受けた鉱山から調達するという目標を指摘したが、これらの鉱山からの供給は現在、需要を満たすのに十分ではないとも強調した。コバルトの需要の急増と採掘地域の規制の欠如を考えると、倫理的なコバルトを調達することの難しさを理解している。しかし、チームは、従業員の権利がより優遇されている地域からのみ調達することを約束している同業他社を指摘した。

発行体は、この分野で引き続き進捗を図り、2023年初頭にチームのフォローアップを受けることに同意した。チームはまた、EV生産に伴う排出量の増加を管理するために、会社がとっている措置についても言及した。発行体は、2030年の目標として、生産排出量の50%削減と使用排出量の42%削減を掲げており、どちらもScience Based Targetsイニシアティブによって検証されていることをチームに説明した。

成果

チームは、発行体がEV目標を達成するために必要な市場条件を明確にする機会を得た。これは、発行体の進捗状況を把握し、同業他社とのベンチマークを行う上で重要である。この発行体と最初に対話をして以来、コバルトやリチウムなどについて、移行に不可欠な7つの原材料を網羅した新しいサプライチェーン・レポートを発行体は発表してきた。コバルトについては、人権意識を高めることを目的とした第三者監査プロジェクトを実施し、また電池セルのサプライヤーとの間で、将来的にはIRMAの監査を受けた供給元からのみコバルトを購入することを義務付ける契約合意を結んだ。

リチウムについては、発行体はサプライチェーン内に環境リスクと人権リスクが存在する可能性があると認識している。

こうした懸念に対処するため、発行体は他の市場参加者に調査を依頼し、主要供給国であるチリのリスクをさらに理解し、効果的で的を絞った行動計画を策定するため、責任あるリチウム・パートナーシップ（Responsible Lithium Partnership）を設立した。

次のステップ

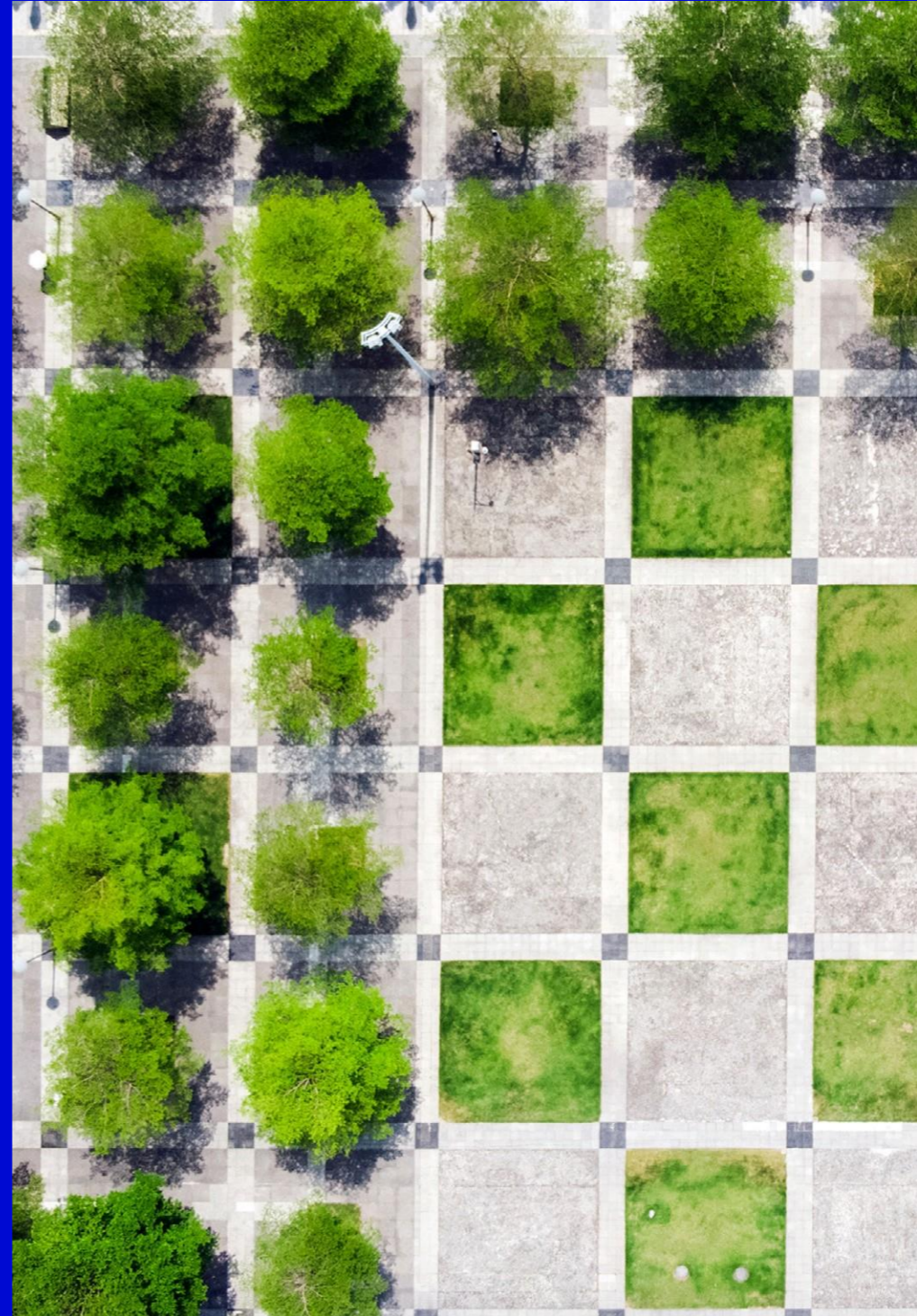
2023年、チームは、サプライチェーン・ポリシーの更新とEV生産目標に向けた進捗状況を追跡するため、発行体とエンゲージメントを継続する予定である。



出所：Invesco。参考までの表示。ヘンリー債券（HFI）チームはESG要素を考慮する一方で、特定のESG基準に縛られることはなく、またファンドがESGに特化した商品に分類されない限り、ベスト・イン・クラスからワースト・イン・クラスのESGまで、ESGのスペクトルを超えて柔軟に投資することができます。

4.0

プロダクト・レンジ



[2022
Stewardship
Report](#)

[1.0
Our
Stewardship
Approach](#)

[2.0
A Global
Platform](#)

[3.0
Active
Stewardship](#)

[4.0
Our Product
Range](#)

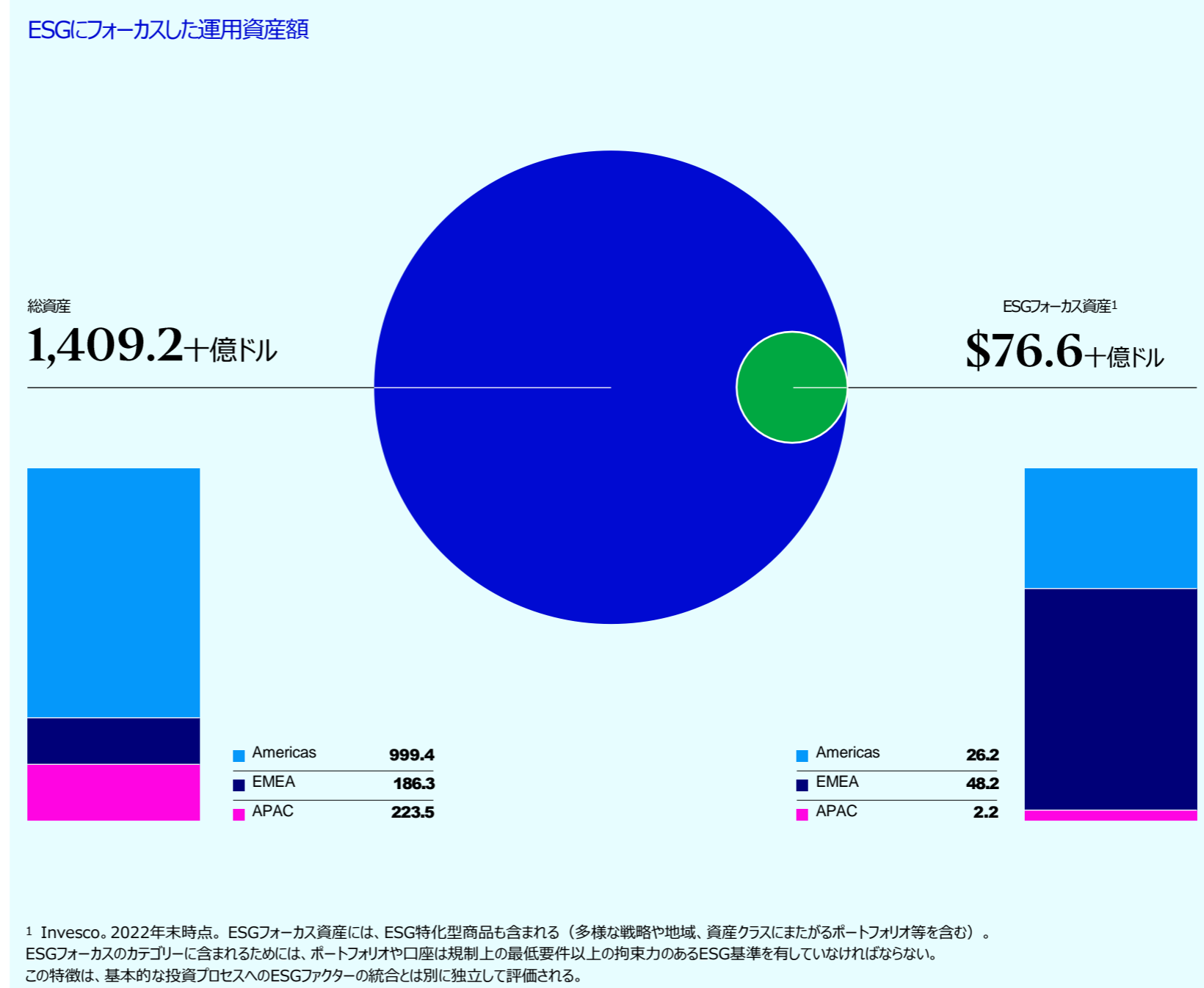
[5.0
Industry
Involvement](#)



4.1 インベスコの運用資産額

インベスコは、世界中の機関投資家および個人投資家のニーズに合わせて、あらゆる資産クラスの戦略を提供しています。株式、債券、実物資産の運用に加え、マルチアセット戦略やLDI（年金負債対応投資）も提供しています。

インベスコは、グローバルに多様な資産運用を行う企業として、お客様固有の投資ニーズをサポートできる体制を整えています。インベスコのお客様の中には、投資ビークルを通じて自らのESG価値観を明示的に表現する手段を提供してほしいという要望もあります。インベスコは、ESGの専門知識を活かして、お客様のESG商品開発をサポートし、お客様に選ばれるESG投資パートナーとなることを目指しています。



ESGに関心のあるお客様には、投資を通じてお客様の価値観を表現できるよう、ESGにフォーカスした様々なケイパビリティを提供しています。

ESGインテグレーション

財務的に重要なESG要素を考慮する。



出所：Invesco。2023年2月時点。参考までの表示。
¹ セーフガードには、関連法規や開示基準との整合が含まれる。

ケース・スタディー – ESG ETFとNEIに関するインベスコ・カナダとのパートナーシップ

カナダでは、サステナブル投資は急速に進化・成長し続けています。インベスコとNEIインベストメントは提携し、カナダのアドバイザーと投資家に対し、高い確信と品質を持ち、持続可能なインデックス・ベースのETFを提供しています。

1.

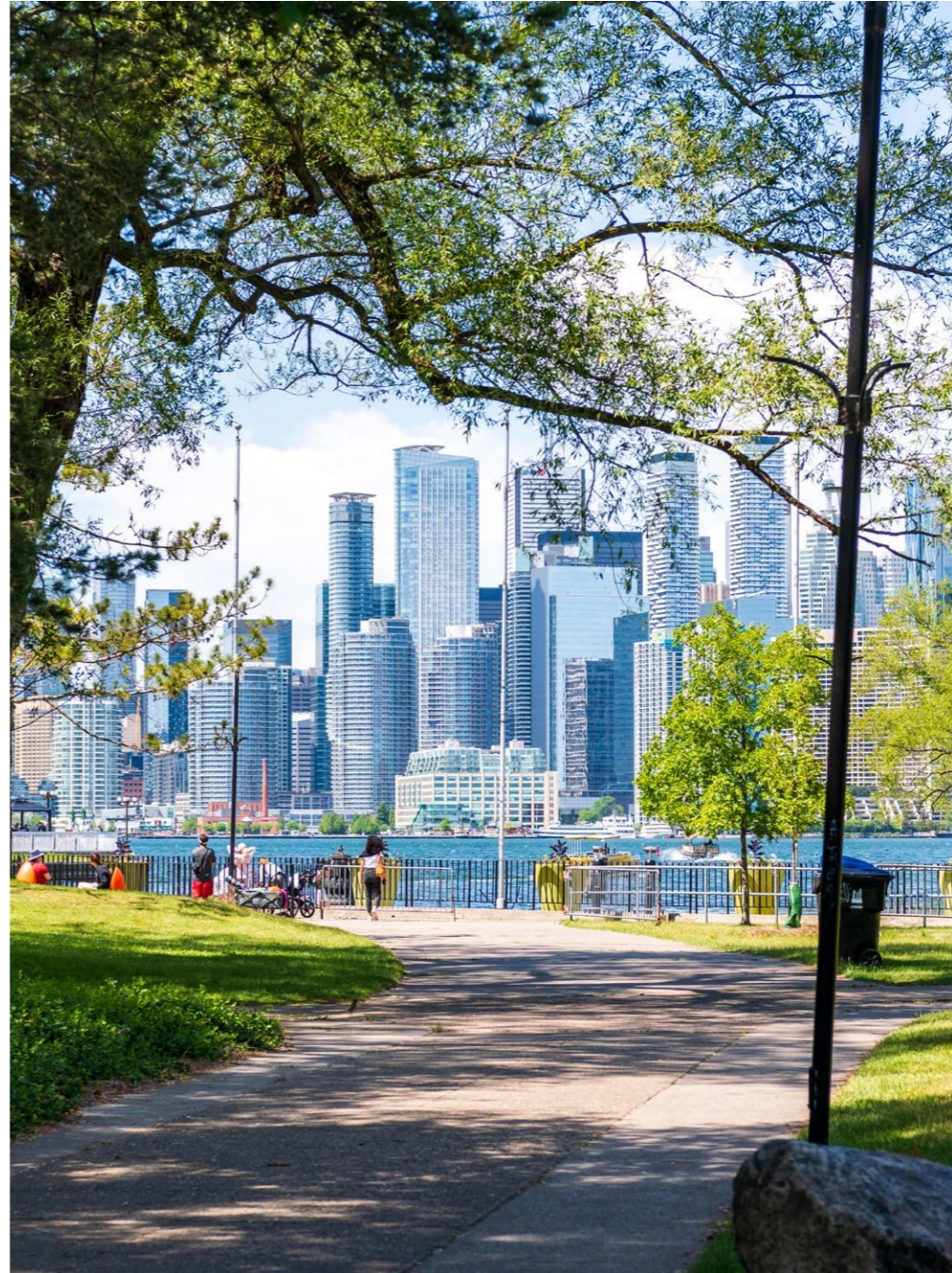
NEIとインベスコ、インデックス・プロバイダー・パートナーの強みとケイパビリティを組み合わせ、サステナブルな投資ソリューションを構築。

2.

堅固で永続的、かつ将来性のある戦略の実現を目指す。

3.

資産の長期的な価値創造と効果的なリスク軽減を強化するため、発行体とのエンゲージメントに対するインベスコの手法を提供する。



5.0

業界活動



[2022
Stewardship
Report](#)

[1.0
Our
Stewardship
Approach](#)

[2.0
A Global
Platform](#)

[3.0
Active
Stewardship](#)

[4.0
Our Product
Range](#)

[5.0
Industry
Involvement](#)



インベスコでは、業界の実務家と学界の架け橋としての立場を認識し、お客様の利益のためになると考えています。インベスコのグローバル・ソート・リーダーシップ・チームは、社内のチームと協力し、実務家の専門知識を活用し、お客様のニーズに応え、政府や政策・規制の動向を把握したコンテンツを制作しています。

また、質の高いリサーチを提供し、より広範な対話に貢献するため、学者や資産運用業界における実務家の幅広いネットワークと提携しています。

ケース・スタディー – Cambridge Judge Business Schoolとの協働

インベスコは、ケンブリッジ・ジャッジ・ビジネス・スクール（CJBS）との10年にわたる協力関係の5年目が2022年に終了したところです。この関係を通じて、インベスコは長期的資産運用、オルタナティブ・ファイナンス、データ分析における研究活動を支援し、同時にインベスコのお客様は、この世界的に有名なビジネス・スクールからの最先端の洞察と研究にアクセスすることで利益を得ています。インベスコはCJBSとの協力のもと、Game Changersというビデオ・シリーズを開発しました。このビデオ・シリーズでは、世界各国からオピニオン・リーダーを集め、急速なイノベーションと破壊が世界や国、企業、家計の各レベルで経済・金融活動にどのような変革をもたらしつつあるかに新たな光を当てています。



協働の成果の一部:

<p>30+ CJBSとの協働から生まれたソート・リーダーシップ</p>	<p>9 CJBSにより発行されたインベスコがスポンサーした研究</p>	<p>CJBSから 60 人がインベスコのイベントに登壇。世界の</p>
<p>8 サポートしたグローバルの調査プロジェクト。これは 40 人の修士学生に提供された</p>	<p> Regulatory Genome Projectの正式なスポンサーにインベスコが選定</p>	<p>19 の異なる地域で開催された。 出席者は 3,700 人以上の顧客</p>
<p> インベスコからの資金提供により、オルタナティブ・ファイナンス・センターの設立スポンサーとなる</p>	<p> 気候リスクやサステナブル/ESG投資に関する数多くのイニシアチブとの協働</p>	<p> Cambridge Digital Assets Programmeの正式なスポンサーにインベスコが選定</p>

ケース・スタディー – 精華大学とのESGリサーチに関する提携

中国の低炭素経済へのロードマップにおいて、高排出セクターの移行経路を理解することは、これらのセクターが中国経済の重要な構成要素であることを考えれば、極めて重要です。

インベスコは昨年、清華大学のグリーン・ファイナンス研究センター（CGFR）と研究提携を結びました。中国の伝統的な炭素集約型産業に焦点を当て、報告書では、石炭採掘、石炭火力発電、鉄鋼産業の上場企業の現在の炭素排出量と、低炭素化への移行をどのように進めているかを分析しました。これには、企業の持続可能な活動や計画を特定する価値指標としてのグリーン収益、ISSB基準に基づくESG情報開示の状況、各部門の技術的道筋も含まれます。また、研究パートナーシップの一環として、中国の業界企業と関わり、その進路を理解するとともに、清華大学の学生と共に世界におけるESGの進展と中国における機会について共有しました。



インベスコは様々な業界団体に参加しています。私たちは、参加することと私たちが関与している業界のイニシアチブの有効性には様々なレベルがあることを認識しています。私たちは、金融市場の継続的な機能向上を促進するため、これまでの活動を土台として関与し、自らの関与を「旅」と捉えています。

インベスコが参加するいくつかの組織はESGをサポートすることにフォーカスしています。2022年時点では、以下の組織に関わっています。

- 30% Club Japan Investors Group
- Asian Corporate Governance Association (ACGA)
- Asia Investor Group on Climate Change (AIGCC)
- Better Building Partnership (BBP)
- Bipartisan Policy Center ESG Task Force
- Carbon Disclosure Project
- Climate Action 100+
- Coalition for Climate-Resilient Investment (CCRI) (founding member)
- Climate Bonds Initiative
- Confluence Philanthropy (Associate Advisor Menu)
- Corporate Responsibility Interface Center (CRIC) (DACH countries)
- Council of Institutional Investors (CII) (US)
- UK FCA Disclosures and Labels Advisory Group (DLAG)
- UK Green Technical Advisory Group (GTAG)
- Farm Animal Investment Risk & Return Initiative (FAIRR)
- Global Real Estate Sustainability Benchmark (GRESB)
- EFAMA SFDR and Taxonomy Committee (Chair)
- ESG Disclosure Study Group (Japan)
- Hong Kong Green Finance Association (HKGFA)
- Investment Company Institute (ICI) (ICI Fund Disclosure Working Group, ICI Global ESG Task Force, and ICI Proxy Issues Working Group)

- Investment Association (UK)
- Investor Forum (UK)
- Institutional Investors Group on Climate Change (IIGCC), including Net Zero Investment Framework working group
- Italian Sustainable Forum (ItaSIF)
- Investment Management Education Alliance (IMEA)
- Irish Funds ESG Legal committee
- One Planet Asset Manager Initiative
- Quoted Companies Alliance (QCA)
- Responsible Investment Association (RIA) (Canada)
- Responsible Investment Association Australasia (RIAA)
- SASB Alliance
- Transition Pathway Initiative
- Task force on Nature-Related Financial Disclosures' (TNFD) Forum
- UK Sustainable Investment and Finance Association (UKSIF), including Board of Directors
- World Economic Forum Financing the Transition to a Net Zero Future Working Group
- Singapore Green Finance Industry Taskforce

また、インベスコは以下の組織の署名機関です。

- Principles for Responsible Investment (PRI)
- EFAMA Stewardship Code
- Indian Stewardship Code
- Japan's Stewardship Code
- UK Stewardship Code
- Net Zero Asset Managers Initiative
- Taskforce on Climate-Related Financial Disclosures (TCFD) (Supporter and Discloser), TCFD Consortium

ケース・スタディー – 自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD)

2022年3月、インベスコは自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) に加盟しました。



これにより、開示枠組みの草案についてフィードバックを行う機会を得るとともに、開示枠組みが完成した際に、それをどのように適用できるかを理解できました。さらに、インベスコはTNFDのコンサルテーション・グループのメンバーとなり、複数の金融機関とともにこの戦略の利用法について意見を出しています。このイニシアチブは、インベスコが生物多様性データの探求を開始し、さらに投資とリサーチのプロセスに生物多様性データを取り入れるきっかけとなりました。

ケース・スタディー – 気候変動に関する機関投資家グループ (IIGCC)

インベスコは、気候変動に関する欧州の投資家イニシアチブである「気候変動に関する機関投資家グループ(IIGCC)」のメンバーです。



2022年も、私たちは引き続きIIGCCの政策運営グループ（以前は「委員会」）に参加しています。このグループへの参加を通じて、グローバルレベル、EUレベル、欧州の国レベルでの金融・気候政策について議論し、規制や政策の発展に貢献しています。また、IIGCCはインベスコがネットゼロ・データの現状を把握しようと努力していることを評価し、2022年10月、インベスコのグローバルESGチームを招聘し、ネットゼロ・データの課題を解決する方法について、より広範な投資家層にガイダンスを提供するよう要請しました。このネットゼロ・ワーキング・グループへの参加は、ネットゼロに関するデータの課題解決に向け、インベスコが効果的に業界に貢献していることを示しています。

Find out more

インベスコのESGに関する情報をさらにお求めの場合は、
ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.invesco.com/jp/ja/>

ご注意事項

本書は、情報提供目的として、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社（以下、「弊社」と言います）が海外の拠点で発行されたものを翻訳して作成したものであり、法令に基づく開示書類でも特定ファンド等の勧誘資料でもありません。本書にて記載された運用戦略名は、インベスコの責任投資アプローチを説明するために例示目的として掲示するものであり、これらの戦略を推薦、勧誘をする意図はありません。本書は、信頼できる情報に基づいて作成されたものですが、その情報の確実性あるいは完結性を表明するものではありません。本書に記載されたランキング並びにレーティング等は、あくまで参考情報であり、将来の運用成果を保証するものでもなく、今後も同等のものを確保することを保証するものでもありません。本文で詳述した本書の分析は、一定の仮定に基づくものであり、その結果の確実性を表明するものではありません。分析の際の仮定は変更されることもあり、それに伴い当初の分析の結果と重要な差異が生じる可能性があります。また、本書は、エンゲージメントを説明するために、過去の一時点における投資先企業との対話事例、または評価事例を掲示いたしますが、あくまで過去の一時点における事例に過ぎず、将来も同様の事例を継続する保証はございません。当資料について事前の許可なく複製、引用、転載、転送を行うことを禁じます。

この文書は、特に断りのない限り、インベスコの専門家によって書かれています。本資料に記載されている意見は、現在の市場情勢に基づいており、他の投資家の意見とは異なる可能性があり、変更される可能性があります。本書は目論見書の一部を構成するものではありません。ランキング、格付け、または賞に対するいかなる言及も、将来のパフォーマンス結果に対する保証を提供せず、時間とともに一定ではありません。データはすべて作成時点あるいは明示した時点のもので、特に断りのない限りインベスコ社が提供しています。すべての画像は、特に断りのない限り、インベスコから入手したものです。

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者
関東財務局長（金商）第 306 号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

投資リスク、費用について

運用にはリスクが伴い、場合によっては元本に損失が生じる可能性があります。当資料は特定の銘柄の運用助言あるいは売買推奨のために用意されたものではありません。弊社運用商品へのご投資には、各商品等に所定の手数料等（投資信託にご投資される場合には投資信託毎に設定された購入時手数料および運用管理費用等の諸経費、投資一任契約の場合は契約毎に設定される運用報酬、等）をご負担いただく場合があります。

弊社運用商品へのご投資には、各商品等に所定の手数料等（投資信託にご投資される場合には投資信託毎に設定された購入時手数料および運用管理費用等の諸経費、投資一任契約の場合は契約毎に設定される運用報酬、等）をご負担いただく場合があります。

弊社の投資信託の購入時手数料は最大3.85%（税抜3.5%）、運用管理費用は最大年率 2.123%（税込）、信託財産留保額は最大0.3%となり、この他にも、保有期間などに応じてご負担いただく費用が発生する場合があります。ファンドの費用の合計額については、保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。各商品へご投資された場合、各商品は価格変動を伴う有価証券に投資するため、投資リスク（株価の変動リスク、株価指数先物の価格変動リスク、公社債にかかるリスク、債券先物の価格変動リスク、コモディティにかかるリスク、信用リスク、デフォルト・リスク、流動性リスク、カントリー・リスク、為替変動リスク、中小型株式への投資リスク、デリバティブ（金融派生商品）に関するリスク等）による損失が生じるおそれがあります。ご投資の際には、当該商品等の契約締結前書面、信託約款、商品説明書、目論見書等を必ずご確認ください。投資一任契約に関しては、次の事項にご留意ください。【投資一任契約に係る報酬】投資一任契約に係る報酬などの総計は、現時点で、当戦略の報酬料率を決定していないため、表示することができません。【特定 金銭 信託の管理報酬】当該信託口座の受託銀行である信託銀行に管理報酬をお支払いいただく必要があります。具体的料率については信託銀行にご確認下さい。【組入 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料等】当該費用については、運用状況や取引量等により変動するものであり、事前に具体的な料率、金額、上限または計算方法等を示すことができません。【費用合計額】上記の費用の合計額については、運用状況などによって変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することができません。

3287932-JP

